

公共交通

こんどう 近藤さん

政府からの発表などで、公共のインフラの維持・運営には膨大なコストが掛かると聞いています。

そこで、持続的な公共交通機関の運営、行政サービスの提供のために、民間資金などの活用、つまり市営交通運営の民営化についてどのようにお考えなのか伺います。



うえだ 上田市長

公共交通を維持していくためには、まずしっかりと利用していただくことが大事です。地下鉄であれば1日60万人が乗れば、あまり心配する必要はありません。

民営化は、経営の合理化を図る上で重要な視点で、これまでも議論しているところですが、これからもいろいろなご意見を寄せていただきたいと思います。

うえだ 上田市長

お困りの降りるところの手すりなどは、大切なことで、これからの高齢社会で必要とされる方がたくさん出てくると思います。

よりしっかりと工夫することができないか、交通局とも話し合っていきたいと思っています。

おおもり 大森さん

私は足が弱いので、市電の段差の昇り降りが大変です。特に降りる時が怖いんです。足が丈夫な人は考えもみませんが、一段二段、降りるのが怖いのです。

降りる時に、左側にはつかまるものがあるのですが、私は右利きですし、世の中には右利きの人が多いので、右側にも何かつかまるものが取り付けられないか考えていただきたいと思います。



どうりょう 堂領さん

市電はJRの駅に隣接していないので、地方の人には乗る機会が少ないものです。

そこで、市電を桑園までぜひ延伸してほしいと思います。桑園駅と札幌駅を通るループの市電ができれば、地方の人なども使いやすくなるし、将来新幹線が開通した場合に、市電を使ってもらえると思います。

うえだ 上田市長

市電については、その存廃について徹底的に議論をし、存続させることを決めました。さらに、札幌駅と直結させるという提言までいただきました。

どの通りになるか分かりませんが、延伸を検討するということは政策として決定しているところです。

きし 岸中央区長

今、保育ママと言って、少人数のお子さんを定期的に預かる制度があります。その対応が柔軟になれば、一時的な保育も可能になるのかなと思いますが、さまざまな要請にどう応えられるか、またサービスとして成り立つかについては、もう少し議論が必要だと思っています。



たおか 田岡さん

子育て世代の女性が気軽にショッピングや美容室に行けると、気分転換になりますし、地域の活性化にもなると思います。

商店街などで、子どもを一時的に預けることができ、地域と密着した子育てができる場があればいいなと思います。



ささき 笹木さん

発達に心配のあるお子さんの作業療法を行う仕事をしています。

子育て支援の方向から、赤ちゃんサロンのようなかたちで臨床心理士や作業療法士などの専門家を配置して、発達がゆっくりなお子さんのための育児と遊びの場が作られるとよいと思っています。



うえだ 上田市長

早期に発達障がいを見出すことはとても大事です。札幌市では、子育てサロンでの遊びの中から気づきを持ってもらい、「ちあふる」などの支援機関につなげる戦略をとっています。

きし 岸中央区長

子育てサロンなどの場の中で、こちら側から声を掛けていって、さりげなく寄り添い、信頼関係を築いていくことが求められていると思います。

子育て